

環境創造局が所管する外郭団体の協約マネジメントサイクル に基づく評価結果等について

本市では、各外郭団体が一定期間における主要な経営目標を本市との「協約」として掲げ、経営の向上を促進する「協約マネジメントサイクル」の取組を進めています。

平成 27 年度から各団体において取組を進めている「協約」については、マネジメントサイクルの効果の向上及び団体経営の健全化を図るため、横浜市外郭団体等経営向上委員会（以下「委員会」という。）を活用し、協約の取組状況等及び団体を取り巻く環境の変化への対応に関する評価を毎年度実施しています。

当局が所管する公益財団法人横浜市緑の協会（以下、「協会」という。）の「協約」について、平成 30 年度の取組実績を踏まえ、委員会による評価が実施されました。

また、状況の変化を踏まえ、「団体経営の方向性及び協約」を一部変更することとし、委員会に報告しましたので、その内容をあわせて御報告します。

1 評価結果

- (1) 協約の期間 平成 30 年度から令和 2 年度まで
- (2) 協約目標の取組状況等（抜粋）
 - ア 公益的使命の達成に向けた取組（1）

協約期間の 主要目標	①都市緑化を推進する機運を醸成するため、普及啓発のイベントを横浜市と連携して実施。 ②緑化活動に意欲のある人材を育成するため、よこはま花と緑の推進リーダー新規認定者数を増加。			
目標達成に 向けて取り 組んだ内容 及び成果	①ガーデンネックレス横浜の実施など、普及啓発のイベントを実施し、多くの来場者に花と緑の魅力を体感してもらい、緑化に関する機運醸成に貢献。 ②推進リーダー育成講座（7回実施）により新規認定者を増加。また、過年度の認定者に研修の機会を設け、スキルアップと情報交換を進め、推進リーダー相互の連携強化、地域の緑化活動の活性化を推進。			
目標数値・ 実績	目標	平成 30 年度	前年度 (平成 29 年度)	当該年度の 進捗状況等
	①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ年2回（春・秋）開催（来場者数24万人/年）、スプリングフェア年1回開催 ②推進リーダー（3年で新規認定者40人以上）	①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春・秋）2回、来場者数：22.2万人）、スプリングフェア（春1回、来場者数28.5万人）。 ②推進リーダー（29年度育成講座受講者）15人を認定。	①スプリングフェア年1回 ②新規推進リーダー認定者16人	順調
今後の課題 及び対応	<ul style="list-style-type: none"> ・花や緑の魅力のPRをより進める必要があるため、ガーデンネックレス横浜の関連イベント等を市と連携し発展させながら引続き実施する。 ・順調に推進リーダーを育成しているが、緑の推進団体の構成員が高齢化し、次世代の緑化推進を担う新たな人材の参画を促す必要があるため、区や地域の福祉関連施設、市内大学等と連携し、新たな担い手の開拓に取り組む。 			

イ 公益的使命の達成に向けた取組（２）

協約期間の 主要目標	・横浜市立動物園が取り組んでいる「種の保存」、「環境教育」に関する取組を多様な主体と連携しながら幅広く発信し、動物園の公的役割の認知度向上を図ると共に誘客促進につなげる。			
目標達成に向けて取り組んだ内容及び成果	・「種の保存」や「環境教育」について実施した様々な取組や成果を、ブログ等で情報発信に努めた結果、件数及び閲覧件数が大きく目標を超える結果となった。また、スマートフォンアプリによる情報発信サービスも含め、動物園の公的役割の認知度向上のための情報発信ができた。			
目標数値・実績	目標	平成 30 年度	前年度 (平成 29 年度)	当該年度の 進捗状況等
	① 3 園合計ブログ発信件数 800 件/年、閲覧件数 100 万件 /年 ② アプリなど多様な情報発信 サービスが展開されている	① 3 園合計ブログ発信件数 873 件、閲覧件数 115 万件/年 ② スマートフォンアプリ one zoo のサービス開始	① 3 園合計のブログ 発信件数 731 件、閲覧件数約 90 万件 ② -	順調
今後の課題 及び対応	・ブログの閲覧件数は前年度比を超えたが、夏の猛暑と台風、11 月、12 月の天候不順により、入園者数の増加につながらなかった。天候不順による影響を最小限に抑えるためにも、ブログ内容の魅力向上のほか、SNS やスマートフォンの動物園アプリ「ONE ZOO」の活用、WEB 広告の掲載や高速道路のサービスエリアにおける広報等、多種多様な広報・PR に取り組む。			

ウ 財務に関する取組

協約期間の 主要目標	・公益事業への還元のための収入の増加			
目標達成に向けて取り組んだ内容及び成果	・年間を通じて収入の増加は伸び悩み、特に GW 以降の上半期は、土日の雨天が目立ったことや、夏場の猛暑による出控え等により、屋外型施設が大きく利用者を減らす中、動物園は夜間開園や独自イベントの実施による来園者の確保に取り組むことで、協約最終年度の目標値の 95.2% を達成した。			
目標数値・実績	目標	平成 30 年度	前年度 (平成 29 年度)	当該年度の 進捗状況等
	1,673,000 千円	1,592,890 千円	1,672,896 千円	やや遅れ
今後の課題 及び対応	・指定管理更新ができなかった 2 つの管理施設の収入減が見込まれるため、既存施設の魅力アップや、更に質の高いサービスが提供できるよう、収益事業で得られる収益の拡大に努める。また、安定的な経営の継続のため、経費の節減に努めるとともに、目標数値の見直しなどを行う。 ・さらに、よこはま動物園隣接地で実施される Park-PFI 事業について、事業者との連携について、検討・調整を行う。			

エ 人事・組織に関する取組

協約期間の 主要目標	①責任職（幹部候補職員、業務責任者）の育成 ②市派遣職員の減			
目標達成に 向けて取り 組んだ内容 及び成果	<p>・全職員対象の研修のほか、責任職向けの研修を実施し、管理職（課長級）への昇任予定者を選定した。</p> <p>・次年度より新たに指定管理公園が始まることを機に、園長や施設長など業務責任者を対象とした研修計画を作成した。</p> <p>・市派遣職員の退職者に伴う、新規市派遣職員は補充せず、協会職員への転換を行い、市の人的支援に依存しない、自立的な運営体制の構築を進めた。</p>			
目標数値・ 実績	目標	平成 30 年度	前年度 (平成 29 年度)	当該年度の 進捗状況等
	①研修年 4 回、研修対象者の拡大 ②3 か年で 4 人	①研修年 7 回 ②1 人	①研修年 4 回 ②1 人	順調
今後の課題 及び対応	<p>・職員の年齢層が 30～40 歳代に偏っており、将来その層が大量退職した場合、知識・技術の継承に支障が出るなど、当協会の安定的な組織運営への不安定要因となる恐れがある。安定的な組織運営に向け、退職補充の際には偏りのない採用ができるよう努める。また、動物園など専門性の高い分野での知識・技術の継承にも取り組むことで、市の人的支援に依存しない自立的な運営体制の構築を進める。</p>			

(3) 令和元年度経営向上委員会の評価結果及び助言

総合評価分類	助言
事業進捗・環境変化等に留意	<p>財務に関する取組の目標である収入の増加について、天候の影響等から屋外型施設の利用者が減少したこと等により「やや遅れ」となっている。</p> <p>また、<u>市が推進する Park-PFI 制度をはじめとする公民連携の取組や公園の指定管理を更新できなかつたこと等、公園管理を取り巻く状況等が変化している。団体経営にあたっては、環境の変化に留意する必要がある。</u></p>

※委員会による評価は、以下の 4 つの評価分類から、団体ごとに決定しています。

- ・ 引き続き取組を推進／団体経営は順調に推移※ ※最終振り返り時の分類名
- ・ 事業進捗・環境変化等に留意
- ・ 取組の強化や課題への対応が必要
- ・ 団体経営の方向性を見直しが必要

(4) 評価結果を受けた所管局・団体の振り返り

<p>財務に関する取組の目標である収益事業収入については、天候による悪影響を最小限にとどめるため、動物園における飲食・販売事業の改善や来園者の増加に向けた SNS やブログ等を活用した様々な PR・情報発信や、イベントによる安定的な誘客・収入確保に向けた取組を積極的に推進してまいります。</p> <p><u>公園管理を取り巻く環境の変化については、本市としては、令和元年 9 月に策定した「公園における公民連携に関する基本方針」を踏まえ、Park-PFI 制度を始めとする様々な公民連携の具体的な取組を検討してまいります。また、団体としては、Park-PFI 等の事業者との連携も含めた公民連携の取組について検討するとともに、公園管理にかかる高度なノウハウを有する団体の優位性を発揮し、引き続き公園の指定管理の維持・獲得に取り組んでまいります。</u></p>

2 協約の変更案

(1) 変更内容

「財務の改善に向けた取組」

協約期間の主要目標	公益事業への還元のための収入の増加	
目標数値	【変更前】 1,673,000 千円	【変更後】 1,305,625 千円

(2) 変更理由

①動物園における物販等の運営方法の見直しによる数値変更	<p>よこはま動物園の物販施設及び野毛山動物園の飲食・物販施設の運営について、運営委託方式に変更します。これまでは、仕入は協会で行い、売上はすべて協会の収入として計上していましたが、運営委託方式では、運営全体を受託事業者が担うため、協会には、受託事業者の売上額に対して一定の料率を乗じた販売手数料だけが収入として計上されます。</p> <p>このため、協会の収入額は見かけ上減少しますが、確実に収入が得られると同時に、これまで協会が負担していた店舗運営にかかる経費が不要となるため、収支改善が図られます。これに加え、今回は運営全体を委託することから、民間事業者のノウハウを生かした運営を行うことにより、売上の増加が期待できます。</p>
②指定管理施設の契約を更新できなかったことによる数値変更	<p>令和元年度からの指定管理の更新において、「清水ヶ丘公園」及び「本牧市民・臨海公園」の2公園の契約更新ができなかったことから、当該公園で見込んだ収益事業収入を除外します。</p>

3

添付資料

- (1) 【別紙1】総合評価シート（30年度実績）（環境創造局所管団体部分（答申抜粋））
- (2) 【別紙2】団体経営の方向性及び協約（変更案）

【参考】横浜市外郭団体等経営向上委員会等について

1 経営向上委員会概要

設置根拠	横浜市外郭団体等経営向上委員会条例（平成26年9月25日施行）
設置目的	外郭団体等のより適正な経営の確保を図るとともに、外郭団体等に関して適切な関与を行うため
委員 (任期2年)	<p>大野 功一（関東学院大学 名誉教授）【委員長】</p> <p>遠藤 淳子（遠藤淳子公認会計士事務所 公認会計士）</p> <p>大江 栄（エフ・ブルーム（株）代表取締役 中小企業診断士）</p> <p>鴨志田 晃（横浜市立大学 学術院国際総合科学群経営学コース教授）</p> <p>田辺 恵一郎（プラットフォームサービス（株）代表取締役会長） ちよだプラットフォームスクエア（官民連携による中小企業者のビジネスコミュニティ施設）運営会社を経営</p>
設置	平成26年10月21日
所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 外郭団体等のより適正な経営を確保するための仕組み及び外郭団体等に対する市の関与の在り方に関する事 2 外郭団体等の経営に関する方針等及びその実施状況の評価に関する事 3 外郭団体等の設立、解散、合併等に関する事 4 その他外郭団体等に関し市長が必要と認める事項

総合評価シート（30年度実績）

別紙 1

団体名	公益財団法人横浜市緑の協会
所管課	環境創造局総務課
協約期間	平成30年度～令和2年度
団体経営の方向性	引き続き経営の向上に取り組む団体
協約に関する意見	市立動物園の使命を踏まえ、団体に期待する役割を市として明確にした上で、最大限の効果が得られる事業を実施すべき。

1 協約の取組状況等

(1) 公益的使命の達成に向けた取組

① 緑化推進事業

ア 公益的使命①	基金の運用益等を活用した緑化推進事業の実施により、都市緑化の普及啓発及び市民の皆様による緑化が進んでいる。			
イ 公益的使命①の達成に向けた協約期間の主要目標	①都市緑化を推進する機運を醸成するため、普及啓発のイベントを横浜市と連携して実施する。 （ガーデンネックレス横浜（通年）実施、里山ガーデンフェスタ年2回（春・秋）開催（来場者数24万人/年）、スプリングフェア年1回開催） ②緑化活動に意欲のある人材を育成するため、よこはま花と緑の推進リーダー新規認定者数を増やす。 （3年で新規推進リーダー認定者40人以上）			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①ガーデンネックレス横浜2018（通年）、里山ガーデンフェスタ（春・秋2回）、及びスプリングフェア2018（春1回）の実施 上記取組を30年度も実施したほか、当協会実施のオープンガーデンの取組を花と緑の情報誌「横浜花ものがたり」に新たに掲載しPRを図った。（30,000冊/年1回） ②推進リーダー育成講座（7回実施） 新規受講者募集を各区推進団体と共に構成員に積極的に声掛けを行った。	エ 取組による成果	①市と連携して、里山ガーデンフェスタ、スプリングフェアを実施し、多くの来場者に花と緑の魅力を体感していただき、緑化に関する機運の醸成ができた。 ②推進リーダー育成講座により新規認定者を増やした。また、過年度の認定者に研修の機会を設け、スキルアップと情報交換を進め、推進リーダー相互の連携強化、地域の緑化活動の活性化に繋がった。	
オ 実績	29年度	30年度	元年度	最終年度（2年度）
数値等	①スプリングフェア年1回 ②新規推進リーダー認定者16人	①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春・秋2回、来場者数：222,500人）、スプリングフェア（春1回、来場者数285,000人）。 ②推進リーダー（29年度育成講座受講者）15人を30年度に認定した。	-	-
当該年度の進捗状況	順調（「ガーデンネックレス横浜2018」で市と連携し、緑化推進・普及啓発イベントを実施した。また、緑化を担う人材育成は、緑の推進団体への情報提供や呼びかけにより成果をあげることが出来た。）			

<p>カ 今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーデンネックレス横浜の関連イベントであるスプリングフェアや里山ガーデンフェスタ等を市と連携し発展させながら実施することにより花や緑の魅力のPRをより進める必要がある。 ・順調に推進リーダーを育成しているが、緑の推進団体の構成員が高齢化し、次世代の緑化推進を担う新たな人材の参画を促す必要がある。 ・花と緑の地域活動が、活動参加者の健康づくりに効果があることなどについて啓発普及を進め、団体への新規加入者増に向けての支援内容の見直し等を検討。 	<p>キ 課題への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーデンネックレス横浜の関連イベントを発展させながら、引き続き市と連携して実施し、花や緑への意識や関心を高める。さらに区等と連携してPRに努め、緑の推進団体の活性化や推進リーダーの育成を図る。また、緑化活動の活性化を目的とした講演会を実施し、参加者の園芸を通しての健康づくりや地域貢献への意欲を醸成し、地域での緑化活動への参画につなげる。地域の福祉関連施設等へ緑の推進団体の紹介をするなど協働で緑化活動に取り組む。 ・さらに、市内大学等など、新たな担い手の開拓に取り組む。
----------------	--	-----------------	--

②動物園事業

<p>ア 公益的使命②</p>	<p>・動物園は、「種の保存」、「環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」の4つの役割を担っており、その中でも世界の動物園の動向を踏まえ、特に「種の保存」、「環境教育」に力を入れ、本市の様々な環境施策と連携することで、生物多様性の保全に向けた取組が行われている。また、動物園の公的役割が広く市民の皆様浸透している。</p>			
<p>イ 公益的使命②の達成に向けた協約期間の主要目標</p>	<p>・横浜市立動物園が取り組んでいる「種の保存」、「環境教育」に関する取組を多様な主体と連携しながら幅広く発信し、動物園の公的役割の認知度向上を図ると共に誘客促進につなげる。 (①3園合計ブログ発信件数 800 件/年、閲覧件数 100 万件/年、②アプリなど多様な情報発信サービスが展開されている。)</p>			
<p>ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容</p>	<p>・「種の保存」は、ゴールデンターキン、テングザル等の希少動物の繁殖等、「環境教育」は、3園での動物展示や説明内容の工夫、学校と連携した各種プログラムの実施やズーラシアスクール、zoo to wild セミナー、JICA と連携したシンポジウム等に取り組んだ。 ・また、各園の取組みを飼育や獣医、教育普及の職員がブログ等で紹介し、動物園の公的役割の認知度向上を図った。</p>	<p>エ 取組による成果</p>	<p>・「種の保存」においては繁殖センターや大学等と連携した共同研究により、ゴールデンターキンの繁殖という成果を上げた。「環境教育」では、3園での動物展示のほか、学校等の団体へのプログラムの提供や動物園独自のズーラシアスクールや各種講演会を実施し、多くの人に環境について考える機会を提供した。特に JICA と連携したシンポジウムはNHK ニュースで放映され認知度向上につながった。 ・さらにブログ等で情報発信に努めた結果、件数及び閲覧件数が大きく目標を超える結果となり、動物園の公的役割の認知度向上へつなげることができた。</p>	
<p>オ 実績</p>	<p>29 年度</p>	<p>30 年度</p>	<p>元年度</p>	<p>最終年度 (2年度)</p>
<p>数値等</p>	<p>① 3園合計のブログ発信件数 731 件、閲覧件数約 90 万件 ②-</p>	<p>① 3園合計ブログ発信件数 873 件、閲覧件数 1,152,346 件 ②スマートフォンアプリ one zoo のサービス開始</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
<p>当該年度の進捗状況</p>	<p>順調（3園合計ブログ発信件数及び閲覧件数が目標数値を達成した。また、スマートフォンアプリによる情報発信サービスも含め、幅広く認知度向上のための情報発信ができた。）</p>			
<p>カ 今後の課題</p>	<p>・ブログの閲覧件数は前年度比を超えたが、夏の猛暑と台風、11月、12月の天候不順により、入園者数の増加につながらなかった。天候不順による影響を最小限に抑えるためにも、多種多様な手法を用いた広報等に取組む必要がある。</p>	<p>キ 課題への対応</p>	<p>・ブログについては、アクセス状況の解析等を行うと共に実際に動物園に来園したくなるような魅力的な内容にし、来園者の増加を図る。また、SNS やスマートフォンの動物園アプリ「ONE ZOO」を積極的に活用、さらには新規で WEB 広告の掲載や高速道路での広報等、広域広報にも取り組む。</p>	

(2)財務に関する取組

<p>ア 財務上の課題</p>	<p>公益法人として公益目的事業を発展的に継続していくために、独自のノウハウや創意工夫を凝らした事業を展開し、更なる収益の確保と経費の節減を図り、自主・自立した財務基盤の構築に向けた取組みを積極的に進める必要がある。</p>
<p>イ 協約期間の主要目標</p>	<p>公益事業への還元のための収入の増加 1,673,000 千円</p>

ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>公園や動物園等、各施設において、各種イベントや教室、企画展を実施するなど、利用者増につなげるための取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治150周年記念特別展（野島公園旧伊藤博文金沢別邸） ・里山ガーデンと連携したスタンプラリー（よこはま動物園）ほか <p>また、各施設の特徴や歴史を反映したオリジナルグッズの販売や、飲食施設において、メニューのリニューアルや季節・期間限定メニューを展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー、バラのジャム、刺しゅうハンカチの販売（山手西洋館） ・ピアガーデン（よこはま動物園）ほか 		エ 取組による成果	公園や動物園等、各施設において様々な取組を工夫して行った結果、個々には収入増などの成果があったが、全体的には、3動物園の来園者数が、土日の雨天や夏場の猛暑等の影響により減少したことから、目標数値の収入額には届かなかった。
オ 実績	29年度	30年度	元年度	最終年度（2年度）
数値等	1,672,896千円	1,592,890千円	-	-
当該年度の進捗状況	<p>やや遅れ（年間を通じて収入の増加は伸び悩み、特にGW以降の上半期は、土日の雨天が目立ったことや、夏場の猛暑による出控え等により、屋外型施設が大きく利用者を減らす中、動物園は夜間開園や独自イベントの実施による来園者の確保に取り組むことで、協約最終年度の目標値の95.2%を達成した。）</p>			
カ 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理更新ができなかった2つの管理施設の収入減が見込まれる。 ・また、よこはま動物園隣接地で実施されるPark-PFI事業について、事業者との連携による事業収益増加の可能性など、検討する必要がある。 		キ 課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の魅力アップや、更に質の高いサービスが提供できるよう、収益事業で得られる収益の拡大に努める。 ・また、安定的な経営の継続のため、経費の節減に努めるとともに、目標数値の見直しなどを行う。 ・また、Park-PFI事業者との連携について、検討・調整を行う。

(3) 人事・組織に関する取組

ア 人事・組織に関する課題	市の人的支援に依存しない自立的な運営体制の構築			
イ 協約期間の主要目標	<p>①責任職（幹部候補職員、業務責任者）の育成 研修年4回、研修対象者の拡大</p> <p>②市派遣職員の減 3か年で4人</p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①7回研修を実施した（ハラスメント研修、メンタルヘルス研修、係長研修、勤務評価研修、人権啓発研修、CS・接遇研修、個人情報保護研修）。また、次年度より新たに指定管理公園が始まることを機に、園長や施設長など業務責任者を対象とした研修計画を作成した。</p> <p>②市派遣職員の退職者に伴う、新規市派遣職員は補充せず、協会職員への転換を行った。</p>		エ 取組による成果	<p>①全職員対象の研修のほか、責任職向けの研修を実施し、管理職（課長級）への昇任予定者を選定した。</p> <p>②市の人的支援に依存しない、自立的な運営体制の構築を進めた。</p>
オ 実績	29年度	30年度	元年度	最終年度（2年度）
数値等	①研修年4回 ②1人	①研修年7回 ②1人	-	-
当該年度の進捗状況	<p>順調（責任職の育成が進んでいるほか、市派遣職員を着実に減らしており、市の人的支援に依存しない自立的な運営体制の構築に向けて着実に前進している。）</p>			
カ 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の年齢層が30～40歳代に偏っており、将来その層が大量退職した場合、知識・技術の継承に支障が出るなど、当協会の安定的な組織運営への不安定要因となる恐れがある。 		キ 課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な組織運営に向け、退職補充の際には偏りのない採用ができるよう努める。また、動物園など専門性の高い分野での知識・技術の継承にも取り組むことで、市の人的支援に依存しない自立的な運営体制の構築を進める。

2 団体を取り巻く環境等

(1) 今後想定される環境変化等

気候変動や生物多様性など、環境問題に対する市民の皆様の意識が高まり、都市環境の保全・改善の重要性が増している。また、平成 29 年の「全国都市緑化よこはまフェア」や「ガーデンシティ横浜」を契機として「ガーデンネックレス横浜」が展開される中で、国際園芸博覧会の開催申請が承認され、成功に向けての動きが加速している。一方、公園施設等の指定管理者としての役割をしっかりと果たすとともに、組織としてこれまで以上に経営の安定化が求められている。

(2) 上記(1)により生ずる団体経営に関する課題及び対応

公益的使命の達成に向けて地域緑化や環境教育の推進など、都市環境の保全・改善に資する取組を途切れず推し進めていく。また、国際園芸博覧会成功に向けての機運を盛り上げるため、横浜市とともに「ガーデンネックレス横浜」を推進し、「里山ガーデンフェスタ」や「よこはま花と緑のスプリングフェア」の運営を今後も担っていく。これらの原資を確保する意味でも、経営改善に取り組むとともに、P-PFI 事業所との連携や営業の強化など、組織としての経営の安定化に向けた取組を推進していく。

総合評価（横浜市外郭団体等経営向上委員会の答申）

分類	引き続き取組を推進	事業進捗・環境変化に留意	取組強化・課題対応	協約等の見直し
助言	財務に関する取組の目標である収入の増加について、天候の影響等から屋外型施設の利用者が減少したこと等により「やや遅れ」となっている。 また、市が推進する Park-PFI 制度をはじめとする公民連携の取組や公園の指定管理を更新できなかったこと等、公園管理を取り巻く状況等が変化している。団体経営にあたっては、環境の変化に留意する必要がある。			

団体経営の方向性及び協約(変更案)

団体名	公益財団法人 横浜市緑の協会	所管課	環境創造局総務課
団体に対する市の関与方針	政策実現のために密接に連携を図る団体		

経営の方向性			
外郭団体としての必要性、役割	当該団体は、よこはま緑の街づくり基金の運用益により都市緑化の推進を図るとともに、公園及び動物園の円滑な運営、健全な利用の増進及び都市環境の改善を図ることを目的とした公益団体です。「中期4か年計画」や「横浜みどりアップ計画」に基づき、花・緑・農・水が街や暮らしとつながるガーデンシティ横浜や都市緑化を本市と連携して推進するなど、市の施策を実現するために不可欠な団体です。		
団体経営の方向性(団体分類)	引き続き経営の向上に取り組む団体	前期協約における団体経営の方向性(団体分類)	引き続き経営の向上に取り組む団体
方向性の考え方(理由)	都市環境の保全・改善の重要性は増しており、当該団体には、本市と協力して、「中期4か年計画」に基づくガーデンシティ横浜の推進や、「横浜市水と緑の基本計画」及び「横浜みどりアップ計画」に基づく都市緑化の推進といった目的の達成に向けて役割を果たすことが求められています。また、公園・動物園の管理運営については、制度等に関する国の動向を踏まえ最適な管理運営形態を検討し、本市と共に多様な主体と連携し、市民ニーズに機敏に対応しながら、今後も利用者満足度の高いサービスを提供することが期待されます。以上のことから、事業を継続的に推進するにあたり、安定的な財政運営を行う必要があるため「引き続き経営の向上に取り組む団体」としました。		
団体経営の方向性及び協約の期間	平成30～32年度	協約期間設定の考え方	<input type="checkbox"/> 団体の中期経営計画期間 <input type="checkbox"/> 主要施設の指定管理受託期間 <input checked="" type="checkbox"/> その他(前協約期間と同期間)

協約(団体の経営向上等に向けた団体及び市の取組)

【取組の概要】
<p>本市の総合的な都市緑化の施策に即し、都市環境の改善のため、緑化推進事業を行います。動物園の運営において、本市の様々な環境施策と連携しながら、生物多様性の保全に貢献するとともに、環境に対する学びの場として取組を進めます。また、これらの取組を多くの人に伝えます。</p> <p>さらに、当協会の自立性を高め、安定的な経営を維持し、公益事業を支える収益事業の強化に取り組みます。業務・組織改革としては、引続き固有職員の人材育成に取り組むとともに、市の人的支援に依存しない自立的な運営体制を構築します。</p>

1 (1) 公益的使命の達成に向けた取組

団体の目指す将来像	基金の運用益等を活用した緑化推進事業の実施により、都市緑化の普及啓発及び市民による緑化が進んでいます。		
現在の取組	都市緑化の普及啓発のためイベントを主催しています。地域の緑化活動を奨励するため、よこはま緑の推進団体・よこはま花と緑の推進リーダーの育成活動支援を行うとともに、リーダー認定者数の増加に向けた取組を行っています。		
協約期間の主要目標	①都市緑化を推進する機運を醸成するため、普及啓発のイベントを横浜市と連携して実施する。 ②緑化活動に意欲のある人材を育成するため、よこはま花と緑の推進リーダー新規認定者数を増やす。	29年度実績	①スプリングフェア年1回 ②新規推進リーダー認定者16人
具体的取組	団体	・花と緑による横浜の魅力向上や市民の取組を推進するため「ガーデンネックレス横浜」を横浜市と連携して実施します。みなとエリアと里山ガーデンで春や秋の魅力づくりと体験の場を創り、市民の緑化に関する機運を醸成します。また、全市の花の見所や見頃の情報発信のほか、花や緑への関心を高めるための取組を行い、一年を通じた緑化活動を推進します。 ・地域で緑化活動に取り組む団体の中から意欲の高い花と緑の推進リーダーを育成し、地域団体の花壇づくり活動への参画を促します。高齢者の健康づくりに資する園芸療法の普及や市内大学との連携等により、よこはま緑の推進団体の活動を活性化し、市民の身近な場所で緑あふれる魅力的な街づくりを推進します。	
	市	・「ガーデンネックレス横浜」を団体と連携して進めます。スプリングフェア、里山ガーデンフェスタ開催のほか、春のみなどエリアにおける魅力づくりを連携して進め、観光・MICEの視点も持って市内外へ発信するとともに、市民の緑化の関心の向上、行動へと繋げる取組を行います。 ・「横浜みどりアップ計画」に基づき緑化助成を行った市民団体に対し、よこはま緑の推進団体の活動を紹介し、継続した緑化活動となるよう働きかけていきます。	

団体名	公益財団法人 横浜市緑の協会	所管課	環境創造局総務課
-----	----------------	-----	----------

協約（団体の経営向上等に向けた団体及び市の取組）

1 (2) 公益的使命の達成に向けた取組

団体の目指す将来像	動物園は、「種の保存」、「環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」の4つの役割を担っており、その中でも世界の動物園の動向を踏まえ、特に「種の保存」、「環境教育」に力を入れ、本市の様々な環境施策と連携することで、生物多様性の保全に向けた取組が行われています。また、動物園の公的役割が広く市民に浸透しています。			
現在の取組	飼育動物や園内プログラムに関するHP・SNSでの情報発信の他、交通事業者及び地域と連携したポスターの掲出、市広報等への情報掲載、市内小学校を通じたチラシの配布、高速道路SA等での園外でのPR活動等を行っています。			
協約期間の主要目標	横浜市立動物園が取り組んでいる「種の保存」、「環境教育」に関する取組を多様な主体と連携しながら幅広く発信し、動物園の公的役割の認知度向上を図ると共に誘客促進につなげる。	29年度実績	①3園合計のブログ発信件数731件、閲覧件数約90万件 ②-	目標数値 ①3園合計ブログ発信件数800件/年、閲覧件数100万件/年 ②アプリなど多様な情報発信サービスが展開されている。
具体的取組	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の動物園や団体と協力して希少動物の繁殖や生息地の保護など「種の保存」に取り組めます。 ・学校の教育活動と連動したプログラム実施や参加体験型プログラム等により、世界の野生動物たちの現状から身近な環境問題までを市民や子どもたちに伝える「環境教育」に取り組めます。 ・これらの取組について、市民が興味や問題意識を持てるようブログで発信することで動物園の取組をより多くの人に伝えます。また、その際、アクセス状況の解析や他のSNS等との連携を行い、より効果的に動物園の役割と魅力を伝えます。 ・動物園の情報や魅力をより広く伝えるために、横浜市、民間事業者との公民連携により、民間資金やノウハウを活用して、スマートフォンを活用したアプリ開発など多様な手法を用いて、動物園の魅力や種の保存・環境教育等の取組についての発信を強化し、公的役割の認知度向上を図ると共に誘客促進につなげます。 		
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖センターが3動物園の繁殖や種の保存、環境教育の取組を支援するとともに、世界・日本・横浜の希少動物の保全を進めることで、生物多様性の保全に貢献します。 ・市の各種広報媒体を活用して、各種取組の広報・PRを行うとともに、民間事業者、区役所や学校などを通じて、利用者が情報をより得やすくなるよう、指定管理者である団体と関係機関等との連携を支援します。 		

2 財務の改善に向けた取組

団体の目指す将来像	公益事業を支える収益事業の強化を図ります。			
現在の取組	管理施設数が減少するなか、収入の増加に努め、安定的な経営を継続しています。			
協約期間の主要目標	公益事業への還元のための収入の増加	29年度実績	1,672,896千円	目標数値 【変更後】1,305,625千円 【変更前】1,673,000千円
具体的取組	団体	管理施設数が減少するなか、安定的な経営を継続するため、引続き、収入の増加を図り、公益事業への還元を図ります。 市が検討している方針を踏まえながら、Park-PFIも含めた公民連携にどのように関わっていけるのか、調査・研究を行い、検討を進めます。		
	市	協会が運営する施設の来園者を増加させるために、市の広報ツールを活用し、支援します。		

3 業務・組織の改革

団体の目指す将来像	市の人的支援に依存しない自立的な運営体制を構築します。			
現在の取組	①幹部候補職員の育成 ②市派遣職員の減			
協約期間の主要目標	①責任職（幹部候補職員、業務責任者）の育成 ②市派遣職員の減	29年度実績	①研修年4回 ②1人	目標数値 ①研修年4回、研修対象者の拡大 ②3か年で4人
具体的取組	団体	人材育成ビジョンに沿った固有職員の計画的な育成などにより、協会職員のマネジメントスキル等の向上を業務責任者にも対象を広げて図るとともに、自立的な運営体制の構築に向け、市からの派遣職員数を削減します。		
	市	協会の自立的な運営体制の構築を促進するために固有職員の育成支援として、市が開催する研修への協会職員の参加など、人材育成の機会を提供します。		

団体名	公益財団法人 横浜市緑の協会	所管課	環境創造局総務課
-----	----------------	-----	----------

素案に対する横浜市外郭団体等経営向上委員会の答申			
団体経営の方向性（団体分類）	引き続き経営の向上に取り組む団体	方向性に関する意見	市立動物園の使命を踏まえ、団体に期待する役割を市として明確にした上で、最大限の効果が得られる事業を実施すべき。
協約及びその他経営向上に関する附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市立動物園の使命の達成に向けた、より良い指標を検討すべき。 ・市立動物園の主な使命である種の保存及び環境教育を達成するための取組と、収益の増加（動物園を含めた来園者の増）のための取組をどのように両立させるのか整理する必要がある。 		